

講義名	経営学入門（商学部・経済学部・2年生以上）			授業形態	
担当教員	柿沼 英樹	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

### 主題と概要

経営学の初學者を念頭に置いて、企業や経営についての基礎的知識や理論を解説する。具体的には、組織論、戦略論、企業論、マーケティングなどの、広い意味での「経営学」を構成する領域を取り上げ、教科書レベルの基本的な解説を行う。また、必要に応じて、若干の発展的内容や事例の紹介を加えていく。経営学の主要なことから体系立てて学ぶことで、自分なりの経営学の見取り図を持つこと、さらには専門的な学びへの意欲を高めることを目指す。

### 到達目標

- (1) 経営学の基礎的知識を身につけることができるようになる。
- (2) 企業経営に関するさまざまな現象を、学んだ知識を使って説明できるようになる。
- (3) 経営学のさまざまな領域のなから、より深く学びたい分野を見つけられるようになる。

### 提出課題

- ・毎回の授業において、その日の内容に関する小テストを実施する。
- ・複数回の授業内容と関連つけたレポート課題を1～2回程度提示する。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・授業回ごとの小テストについては、授業内で解答の提示と補足解説を行う。
- ・レポート課題については、締切後の授業にて全体向けにフィードバックを行う。

### 評価の基準

- ・授業回ごとの小テスト20%、レポート課題20%、定期試験60%（詳細については、別途案内する）
- ・6回以上の講義出席は、自動的に「放棄」として評価を確定する。ただし、これは「5回までなら欠席して良い」という意味ではない。
- ・登学停止や欠欠に該当する事由は、大学が定めた手続きを行った場合のみ配慮する。

### 履修にあたっての注意・助言他

- ・座席表にもとづく欠席確認を行う場合があるので、指定された座席で受講すること。
- ・公共交通機関の遅延以外の理由による15分以上の遅刻は、その日の受講や小テストの回答提出を認めるが、欠席は「欠席」として扱う。
- ・他の受講生の迷惑となる行為は厳禁とし、違反者は厳重に対処する。場合によっては退学を命じることもある。

### 教科書

.1からの経営学 第3版.	加護野忠男・吉村典久	碩学舎	2640	9784502375217
---------------	------------	-----	------	---------------

### 参考図書

.経験から学ぶ経営学入門 第2版.	上林重雄・奥村康司・藤泰隆・間本浩矢・森田雅志・竹越昭	有斐閣	2640	9784641184435
-------------------	-----------------------------	-----	------	---------------

### その他

<講義資料>  
授業回ごとに LMS にアップロードするので、自分で確認すること。教室内での印刷物の配布は行わない。

### 授業計画

- 第1回 経営学入門で学ぶこと：講義ガイダンス、経営学の大まかなイメージ
- 第2回 企業経営の全体像：市場、経営資源、組織
- 第3回 経営学の全体像：経営学・商学・会計学・経済学の関係性、経営学の特徴
- 第4回 株式会社仕組み：会社と株主、会社機関、資金調達
- 第5回 日本の雇用制度：「三種の神器」論、ふたつの労働市場、雇用慣行の変化
- 第6回 競争戦略のマネジメント（1）：企業戦略と競争戦略の基本的な考え方
- 第7回 競争戦略のマネジメント（2）：違いをつくる3つの基本戦略
- 第8回 多角化戦略のマネジメント：多角化、M&A、戦略的提携
- 第9回 マーケティング：マーケティング・コンセプト、STPと4Ps、ブランド
- 第10回 国際化のマネジメント：国際化の動機、国境を越えることで生じる課題
- 第11回 マクロ組織のマネジメント：組織構造、職務設計
- 第12回 ミクロ組織のマネジメント：インセンティブ・システム、リーダーシップ
- 第13回 キャリアデザイン：キャリアとドリーム、キャリア・プランナー、計画された偶発性
- 第14回 経営学の広がり：ファミリービジネス、非営利組織、サービス経営
- 第15回 まとめと補足解説：経営学の見取り図をつくる

### 定期試験

- ・原則として、教科書の同じ章タイトル部分に準拠して進める。
- ・例外的に、第1回は序文と第1章の一部、第2回は第1章の一部、第3回は第3章と第4章の一部、第4回は第4章の一部、第5回は第5章と第6章を取り扱う。
- ・第5回は、参考図書の第13章に依拠して進める。第15回は全体のまとめであり、教科書・参考図書の特定の章に沿って進めるわけではない。

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

<予習>  
教科書および講義資料を通読し、その授業回の主なトピック、キーワードを確認しておくこと。40分程度。  
<復習>  
講義資料には概略のみを記載しているので、教科書や参考文献を参照しながら詳細を補充すること。また、各種メディアでの企業経営に関する報道に触れ、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること。合わせて120分程度。  
これらのほか、レポート課題に関連する取り組みに、合わせて20時間程度を要する。  
総合すると、授業全体として60時間程度の準備学修を想定している。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目では、企業経営に関わる現象や事実から問題点やその要因を見つけ出し、解決すべき課題を設定する「課題発見力」の伸張につながる基礎知識を習得することができる。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・小テスト課題・レポート課題は、オンラインツールを使用する。
- ・授業内での発言（またはオンラインツールへの書き込み）を求めていることがある。積極的な授業参加を期待する。

### 実務経験の有無及び活用

### 備考